

2016年度（第52回）水工学に関する夏期研修会開催について



Aコース 河川・水文 行事コード：236021

Bコース 海岸・港湾 行事コード：236022

1. 主催 —— 土木学会（担当：水工学委員会，海岸工学委員会）
2. 後援 —— 土木学会東北支部
3. 期日 —— 2016年8月22日（月）～ 23日（火）の2日間（A，Bコース並行開催）
4. 場所 —— 秋田大学 一般教育2号館 103講義室，203講義室（秋田市手形学園町1-1）
会場までのアクセスの紹介ホームページ：<http://www.akita-u.ac.jp/honbu/access/index.html>
徒歩：秋田駅東口から約15分。
バス：秋田駅西口バスのりば12番線から手形山経由大学病院線「秋田大学前」下車約6分。
5. 定員 —— Aコース 150名 Bコース 150名
6. 受講料 —— 1コースにつき1名 一般（社会人） 16,000円
学生・院生 10,000円
*いずれのコースも受講料に，講義集代（6,500円）が含まれています。
7. 申込方法 —— 下記のいずれかの方法でお申込下さい。
 - (1) 土木学会ホームページ：<http://www.jsce.or.jp/event/active/information.asp>
 - (2) FAX：学会誌巻末に掲載されている「本部行事参加申込用紙」をご利用下さい。
8. 申込に関するお願い
 - (1) 現地で当日参加申込をされるのではなく，極力この「事前申込」にて予め参加お申込みをお済ませください。また，その際，なるべく当日現金払いでなく「銀行振込」か「郵便振替」でのお支払いをご選択いただければ幸いです。会場の混雑緩和にご協力をお願い申し上げます。
 - (2) 申込締切日前に定員に達する場合がございます。予めご了承ください。締切日以降の事前受付は致しませんが，定員に余裕があれば行事当日会場にて受け付けます。
 - (3) 申込後，やむを得ずキャンセルをされる場合は，必ず8月16日（火）17時までに研究事業課（水工学夏期研修会担当：03-3355-3559）へご連絡ください。ご連絡がない場合は，参加費を徴収させていただきますので予めご了承ください。
* 申込書到着後，一週間前後にて折り返し「参加券」および「請求書類」をお送り致します。
9. 申込締切日 —— 2016年8月16日（火）17時【必着】
10. 講義集の販売について
テキストのみご希望の場合は，研修会終了後に出版事業課までお問合せください。
注）研修会場でも販売いたします。 価格：A，Bコース共に 1冊 6,500円（税込）
11. プログラム等の最新情報
各委員会のホームページをご覧ください。
水工学委員会ホームページ：<http://committees.jsce.or.jp/hydraulic/>
海岸工学委員会ホームページ：<http://www.coastal.jp/ja/>

Aコース：河川・水文コース 「地球環境変化時代の水防災」

水災害の防止・軽減（復興を含む）を目指して継続的に様々な取り組みが行われています。国際的な防災戦略である「2005年兵庫行動枠組」後の15年間を対象とした「2015年仙台防災枠組（防災・減災は政策の優先課題，投資，強く良い社会の構築，など）」が策定されて1年が経過します。2015年の関東・東北豪雨災害後1年を節目に主な取り組みの方向性を見極め，水災害の防止・軽減の行方を，仙台防災枠組や関東・東北豪雨災害を踏まえながら解説します。

1日目はソフトとハードを織り交ぜた話題で，仙台防災枠組の策定に反映された科学・技術分野の取り組みとその後の展開，関東・東北豪雨災害を踏まえた社会資本整備審議会の答申に基づく水防災意識社会再構築に向けた取り組み，関東・東北豪雨災害における堤防の被災とそのメカニズム，地球温暖化時代を踏まえた積雪と融雪洪水のモデルについて講義します。

2日目はハード的な話題が中心で，地球温暖化時代を踏まえた短，中，長期の流出，2014年広島豪雨災害などを

踏まえた土砂災害を発生させる現象の実態、河床波による河床粗度や河道内樹林による粗度を踏まえた洪水と河道管理、関東・東北豪雨災害などを踏まえた防護施設と洪水氾濫について講義します。

この2日間の本コース研修会では話題内容は限られていますが、水災害の防止・軽減に関するこれまでの歴史、現状と今後の行方の本流が理解できる研修内容となっています。本コース研修会が河川・水文分野に携わるまたは興味がある技術者、研究者、将来を担う学生の皆様にとって有益な情報を得る、そして一層発展する機会となれば幸いです。

8月22日(月)

- (1) 9:00～10:30 「仙台防災枠組2015-2030」の策定に向けた科学・技術分野の取り組みとその後の展開
東京大学・教授 小池俊雄
- (2) 10:45～12:15 水防災意識社会再構築に向けた取り組みについて
国交省・東北地方整備局・河川部長 畠山慎一
- (3) 13:15～14:45 2015年関東・東北豪雨災害における鬼怒川の堤防被災状況の把握とそのメカニズムの検討
東京理科大学・教授 二瓶泰雄
- (4) 15:00～16:30 降雪・積雪・融雪のモデリング
東北大学・教授 風間 聡

8月23日(火)

- (5) 9:00～10:30 流出予測、数時間前から数十年先まで
東北大学・名誉教授 真野 明
- (6) 10:45～12:15 土砂災害を発生させる現象の実態と解析
京都大学・准教授 竹林洋史
- (7) 13:15～14:45 洪水と河道管理
北海道大学・教授 泉 典洋
- (8) 15:00～16:30 水防施設と氾濫 —2011年タイ大洪水および2015年関東・東北豪雨を例として—
東北大学・准教授 小森大輔

Bコース：海岸・港湾コース 「東日本大震災後の津波防災」

2011年の東日本大震災後、津波の防災・減災(復興を含む)を目指して様々な取り組みが行われています。国際的な防災戦略である「2005年兵庫行動枠組」後の15年間を対象とした「2015年仙台防災枠組(防災・減災は政策の優先課題、投資、強く良い社会の構築、など)」が策定されて1年が経過します。大震災後5年を節目に主な取り組みの方向性を見極め、津波の防災・減災の行方を、東日本大震災や仙台防災枠組を踏まえながら解説します。

1日目はソフトな話題が中心で、仙台防災枠組を踏まえた国際的な津波防災のあり方、東日本大震災を踏まえた法律に基づく津波防災地域づくり、インド洋大津波以降急速・大幅に進歩した広域災害の把握と評価、東日本大震災を踏まえた災害に強い漁業地域づくりについて講義します。

2日目はハードな話題が中心で、東日本大震災や物理・数値実験などを踏まえた防護施設とまちづくり、古くて新しい課題である建築物に作用する津波荷重、東日本大震災を踏まえた津波の河川遡上と防災、そして本コース研修会の総括と位置付けした高潮・津波対策の歩みについて講義します。

この2日間の本コース研修会では話題内容は限られていますが、津波の防災・減災に関するこれまでの歴史、現状と今後の行方の本流が理解できる研修内容となっています。本コース研修会が海岸・港湾分野に携わるまたは興味がある技術者、研究者、将来を担う学生の皆様にとって有益な情報を得る、そして一層発展する機会となれば幸いです。

8月22日(月)

- (1) 9:00～10:30 仙台防災枠組を踏まえた国際的防災戦略 —世界社会の安全構築への学の役割—
東北大学・災害科学国際研究所長 今村文彦
- (2) 10:45～12:15 津波防災地域づくりと津波浸水想定の設定
国交省・国総研・室長 諏訪義雄
- (3) 13:15～14:45 広域災害の把握と評価
東北大学・教授 越村俊一
- (4) 15:00～16:30 津波を踏まえた災害に強い漁業地域づくりについて
漁村総研・理事長 影山智将

8月23日(火)

- (5) 9:00～10:30 高潮・津波対策の変遷
東北大学・名誉教授 首藤伸夫
- (6) 10:45～12:15 防護施設とまちづくり
中央大学・教授 有川太郎
- (7) 13:15～14:45 津波の河川遡上と防災
東北大学・教授 田中 仁
- (8) 15:00～16:30 建築物に作用する津波荷重
秋田大学・教授 松富英夫

12. 問合せ ——— 土木学会研究事業課・松沼 (TEL : 03-3355-3559)